



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	ルポルタージュ「北方領土：国後島」：北方四島交流事業に参加して(fulltext)
Author(s)	古家,正暢
Citation	国際中等教育研究：東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要(6): 49-54
Issue Date	2013-03
URL	http://hdl.handle.net/2309/137112
Publisher	東京学芸大学附属国際中等教育学校
Rights	

ルポルタージュ「北方領土：国後島」

—北方四島交流事業に参加して—

Reportage: “Northern Territories: Kunashiri Island”

—Field report on the exchange programme for the four northern islands—

社会科 古家 正暢

はじめに

2012年ほど日本の領土問題がクローズアップされた年はなかった。発端は4月の石原慎太郎都知事による「尖閣諸島購入」発言であった。あたかも領土問題が愛国心を煽る興奮剤と化したかのような1年であった。このような状況下、私は7月、北方領土問題対策協会主催の「北方四島交流教育関係者・青少年訪問事業」により国後島を訪問する機会を得た。ここにパスポート・ビザなし訪問で見聞した国後島の実態を報告する。

なお、本校では、2009年に2名（秋山・古家）。2011年に4名（佐々木・長谷川・藤木・古家）が、北方領土の返還を求める都民会議主催の「現地視察研修会（根室訪問）」に参加してきた。同じく2011年には、古家が『北方領土：元島民は難民ではないのか… - 元島民に対し、今、私にできることは - 』¹と題して公開授業を実践した。

1. 根室での事前研修会

1-1. 吹浦忠正氏（ユーラシア21研究所理事長）

ロシア&国後島

サハリン州クルリ列島 常時5000人の北朝鮮人が働いている。

「3K」の仕事は北朝鮮人が行っている。

Made in Russia のないロシア 「ものづくり」をしないロシア人ともいわれている
北方領土の僻地手当（給与の3倍） 家族をユーラシア大陸におき単身赴任する者が多い。
政府は5年間で約700億円の開発費を投入

*半分以上は役人のポケットへ消えている…？

岸壁は造ったけれど海底まで清掃していない（沈没船の放置）ため座礁の恐れがある。

⇒ゆえに、国後島：古釜布港へも「はしけ」で渡らなければならない。

政治家の着服・横領

「日本人とロシア人の友好の家（通称：ムネオハウス）」

プレハブの建造物：日本政府は5億円を支出⇒実質：数千万円程度の建造物である。

国後・サハリン・モスクワの政治家の懐に入ってしまったと考えられる。

この北方四島との交流事業費もすべて日本政府が全額負担している。日本から北方四島はもちろんのこと、ロシアから日本（北海道の他、京都・九州）への訪問費用も全額日本が負担している。

1-2. 齊藤啓輔氏（外務省欧州局ロシア課）

東京宣言：「法と正義」の原則を基礎として（1993年）

領土問題を、北方四島の島名を列挙し、その帰属に関する問題であると位置づけ、領土問

¹ 『北方領土：元島民は難民ではないのか…』「中等教育学校における前・後期課程のつながりを意識した地理学習」 国際中等教育研究 第5号 2011

題を歴史的、法的事実に立脚し、両国の間で合意の上作成された諸文書及び

法と正義の原則を基礎として解決して、平和条約を早期に締結する。

スターリン時代の残滓（知識人をシベリア送り）克服

- 国際法の原則に抵触 日ソ中立条約を一方的に破ったソ連
- ポツダム宣言受諾後、8月18日に千島列島へ侵攻を始めた。
- 日本軍は武装解除し、戦闘行為がなかったにもかかわらず当時の島民を強制連行した。

北方四島交流事業の意義

北方四島交流事業＝内閣府の予算（年間約20億円） 毎年500名ほどが参加。

しかし、国内で販売される「北海道」の地図絵柄を用いた商品の80%に北方四島が入っていない。

*⇒ 『ロシア地図に北方領土なし』『五輪開催中のロンドンで、2014年にロシア・ソチで開かれる冬季五輪を宣伝する施設に掲げられたロシアの地図から北方領土が抜け落ちていることが分かり、ロシアのメディアが相次いで報道している。』²

齊藤氏の話とこの新聞記事を読み、近隣のスーパーマーケットに行ってみた。北海道の地図絵柄の入った商品を捜すと、雪印メグミルクのバター・明治乳業の北海道牛乳・ハウス食品の北海道シチューには北方領土の地図はなく、サッポロビールの北海道 PREMIUM のみに北方領土：国後島の地図が入っていた。この事実をどのように考えればよいのだろうか…。

正しい用語 「実効支配」と「事実上の占拠」

北方四島は ×ロシアに実効支配されている

→実効支配とは、正当な権限をもって、その領域をコントロールしているという意味

ロシアに正当な権限あるのか… よって実効支配という用語は正しくない。

正しくは「事実上の占拠」とするのが望ましい。用語は正しく使おう。

英語で考えた方が良いかもしれない。×control と ○occupy

外交交渉とは…

外交交渉にあたって、手の内を晒してしまうのは百害あって一利なし。

2島という出発点であったならば、それ以上のものはなく、そこが最高点。

4島という交渉を進め、選挙で選ばれた政治指導者が決着をつけるべき課題である。

また、外務官僚はあくまで外交交渉上の秘密事項は守るべきであり、無闇に出版活動をすべきではない。

2. 国後島内を視察して

○古釜布の商店

あふれる商品。とても貧困の島：国後島とは言えない。言うてはいけない。

○「ベローチカ」保育園 8:00～18:30 園児60名 教師6名

3,059ルーブル／月 *学校の先生の給与：約40,000ルーブル

子ども一人20%返還 子ども二人50%返還 三人以上70%返還

出生率は上昇傾向にあり。保育士は大学を出て2年間の研修の後、先生となる。

² 朝日新聞 2012年8月3日

園児たちの将来の夢は、宇宙飛行士・設計士・デザイナーなど…

近年の変化：海岸沿いの家が、徐々に高台へと住宅地が広がってきている。

児童虐待はロシア全体としてはあるが、この保育園ではない。

午前：体操 図工 算数 午後：ゲーム おはなし（コミュニケーションを大切に）

○古釜布の初等・中等学校

1 クラス 25 名程度 教科教室型（教科によって生徒が移動）

低学年は 35 分授業 4 年生以上は 45 分授業

11 年生修了時、国家統一試験がある。大きな試験は年 1 回 数学とロシア語は必須
全教室にコンピュータ・プロジェクター・電子黒板完備 すべて SAMSUNG 等韓国製。

○消防署 新設 1 年 4 交代で 30 名が勤務

現場消防士は男性のみ（法律で決まっているわけではないが女性消防士はいない）

消防車の運転は、軍隊での指導の後、運転するようになることが多い。

救命救急士としての仕事が多い。火災原因の第一はたき火の不始末。

消防士は小さい子どもの憧れの職業ではあるが、実際の就職希望は少ない。

○図書館 蔵書 32,000 冊 さまざまな特別コーナーを設けていた。

「いにしへの謎めいた国：日本」 芥川生誕 120 周年記念 *若者には村上春樹が人気

「ろくに」サークル *ロシア・くなしり・日本

幅広い年齢層 中高年を中心に約 20 名ほど テーマを決めて日本を学ぶ

国後島の 30% くらいの人利用。40 代以降の利用者が多い。

新聞は購読料が値上がりしたので、図書館で読む人が増えた。サハリンからの船便。

○国後島メンデレーエフ空港 *1953 年創設当初は鉄板の滑走路。

現在 2,000m×36m 誘導灯 新しい管制塔 →第 3 級の空港

1 週間に 5 便 ユジノサハリンスク 12,000 人/年

夏場は霧のため 欠航率 30% 欠航の場合、ホテル代は航空会社が負担

ユジノサハリンスクまで片道 4,600 ルーブル（12,000 円弱） 全便ほぼ満席

おもな輸送品 生鮮食料品・医薬品・その他緊急物資

○正教会 *メドベージェフ大統領（当時）に神父が建替えを直訴

国後島の信徒の寄付だけでは賄えない。国および個人寄付もあり現在建設中。

建設現場の労働者にカメラを向けると後方に隠れた。北朝鮮の労働者とのこと。

3. 国後島での教育関係者意見交換会

基本情報 国後島住民：平均年齢 32 歳 7,000 名

うち幼稚園から 11 年生（学生） 1,217 名

生徒の非行が問題となっている。→ 保護者を呼んで指導している。

教育関係者・意見交換会において、私の属するグループで取り上げた問題は、「この北方四島交流事業（パスポート・ビザなし訪問）を、北方四島：国後島では、子どもたちにどのように指導しているのか…」ということであった。「日本の子どもたちには、ビザなし交流は、北方領土問題解決のために必要な交流であると教えているのだが…国後島ではいかがか…」と問うことであった。ロシア国後島：教育課長チュマチェンコ氏との質疑応答を再現する。

日：「ビザなし交流」について 子どもたちにどのように指導しているのか… 日本のことにつ

いて事前学習しているとお聞きした。日本の子どもたちにはビザなし交流は、北方領土問題の解決のために必要な交流であると教えてきているのだが… 国後島ではいかがか…

ロ： 私たちも子どもたちに隠し事はしていない。しかし、この問題は高いレベルでの政治問題である。善隣関係 同じような気候・地震・自然環境の国として…日本に対しては親しみをもっている。1994年の北海道東方沖地震の際、人道支援を真っ先にしてくれた国が日本であった。深く感謝している。

日：なぜ北方領土問題があるのか… その原因・理由については、どのように教えているのか。

ロ：教育省でつくられた教科書に従って教えている。 第2次世界大戦の結果として…

反ヒトラーの戦い この戦争の勝利者として… この島を得た。

*吹浦忠正氏が、1993年9月の第1回ビザなし訪問の際、「日露戦争で奪われたものを第2次世界大戦で取り返して何が悪い！」という対応であったというが、私は本質的には何も変わっていないように感じた。

日：友好の家近隣や図書館で、10歳くらいの男女に「こんにちは…」とあいさつされました。学校で「あいさつしましょう！」という指導・教育をしているのでしょうか…。日本では学校内でのあいさつは指導するのですが、学校外までは指導しないのですが…

ロ：幼稚園から知り合いにあったら挨拶しましょうと教えている。小さな村でも日本語を教えている影響ではないかと考える。

日：国後島では国後島へやってくる日本人をどのように教えているのか…

ロ：ビザなしで来ている人たちだと教えている。

日：隣国・日本との友好関係を大切にしているとお聞きしたが、お隣の国・日本との境界は、どこであると教えているのでしょうか…

ロ：(地図を見ながら、納沙布岬の先と国後島の西に線を引く。)

日本の範囲・領域について インターネット等の世界地図では、北方四島は、ロシアと表現されている。日本だけが異なった主張をしているのでは…

日：日本では、係争のある国境・係争地については、インド・パキスタン国境のカシミール地方等については包み隠さず記述している。日本では、小学校で簡潔にロシアとのかかわりを。中学校に進学すると、地理や歴史の時間にロシアのことについて学んでいる。ロシアでは、いかがか…

ロ：ロシアでは、社会科・歴史をしっかりと学んでいる。大学の試験にも歴史は入っている。カリーニングラード州は一度もソ連領となったことはないが、ドイツは返還を要求していないという歴史がある…。

日：ドイツはカリーニングラードを返せとは言わないと言われたが、ドイツは統一ドイツ実現のために他のすべての主張を捨てたのであって、日本は…最初から北方領土返還だけを望んできたので、異質な問題であると考えるが…

ロ：たしかに…そうですね。

日：教育省によって学習指導要領…のようなものが決まっていると聞いたが…

ロ：この科目は〇〇時間と行うようにというのは決まっている。州によって追加の時間、サハリンであったら郷土史を入れることがある。

日：その際に、北方領土問題を教えたことはないのか…

ロ：サハリン教育大学で手引書を作成している。そこには記述があると思うが、あいにく、社

会科の教師がバカンスに出ているので… 詳しいことはお答えできない。

日：東沸墓地・古釜布日本人墓地ともに、国後島の方々によって整備されていることを深く感謝したい。

ロシアの青年：観光（パスポート・ビザを持参して）で来島すれば、いつでも墓参できるのではないか…

内閣府の塚越氏：日本の境界線とロシアの境界線の考え方が異なっている。国後は双方の国の主張がぶつかっている島である。このため、国後に観光ビザで訪問するということは、国後日本ではないというロシアの主張を認めることにつながる。このため、日本政府としてはビザを取っての訪問を認めることはできない。政府としても強く自粛を求めているところである。

4. 国後島での交流事業を通して

4-1. ホームビジットを通して感じた日本人教師の声

- ロシア人は大きくてコワイというイメージをいただいていたが大きく変わった。
- ロシアに対して、マイナスイメージを持っていたが、ホームビジットを通じて、ロシア人が好きになった。今後はロシア人だけでなくロシアという国を好きになりたい。
- ロシア人が、たいへん日本・日本人のことを学んでいた。私たち日本人もこれからロシアのことを学んでいかなければならないと感じた。
- 日本のアニメに詳しいロシアの中学生に出会った。アニメを通しての交流も考えるべきではないか…と感じた。

4-2. 国後島のロシア人から見た日本

- ◇日本は素晴らしい。日本人は頭がいい。日本人には感謝している。
- ◇とてもいいイメージをもっている。興味深い国 歴史を持った国だと感じている。
- ◇日本へ行ったことがあるか否かで日本理解が異なるが、技術的に大変進んでいる国。
- ◇国後島の戦勝記念碑は、あくまで 1941-1945 の大祖国戦争に参戦した人たちの慰霊碑であり、ロシア人は、あくまでもファシストから国を守ったという意識である。日本に勝ったという記念碑ではないということを知ってほしい。

4-3. 私が感じた交流事業

北方四島交流事業に参加させていただいて、このようなことを言うのは不謹慎であるかもしれないのだが、この事業が平等な関係の下に行われていないことに問題があると思った。日本から北方領土を訪問する費用を日本政府が支払うことに問題はない。しかし、北方領土から日本への訪問者の費用も全額負担することには、いささか問題があるのではないかと感じた。私が国後島でホームビジットさせていただいた家庭は大変な親日家であったが、よく話を聞いてみると 18 回も来日されているとのことであった。18 回も招待旅行させてもらえば、絶対に日本を悪く言うことはない。このような家庭に招待され、どんなに心地良いひとときを過ごそうとも、北方領土問題は絶対に解決しない。

1993 年から 20 年にわたり、北方四島交流事業が実施されているにもかかわらず、教育課長が「カリーニングラード州をドイツは一度も返還要求していない」とか、オブザーバーとして参加していた青年が「観光で来島すれば、いつでも墓参できるのではないか…」という発言が、未だに出る状況を深刻に受けとめなければならぬと感じた。

5. これからの北方四島交流事業に望むこと

- (1) 日本の小学校・中学校・高等学校段階で、ロシアを取り上げている教科書をすべて持参する。付箋を添付し、ココにこのような記述がある。このようにして、日本ではロシア理解を深めていると視覚に訴える必要がある。そして、可能であれば、図書館・博物館に「日本の学校事情コーナー」を設けていただき展示していただくと良い。
- (2) 教育関係者の北方四島交流事業の実施時期を再検討しなければならない。夏休みの実施であると、私たちは参加しやすいのだが、北方四島の先生方がバカンスに出てしまい、話を深めることができない。チュマチェンコ教育課長から「5月実施であれば、より充実した話し合いができるのに…」と言われ「確かに…」と思った。5月のゴールデンウィーク実施はいかがだろうか。
- (3) 戦後66年間、解決することのできなかつた北方領土問題。「天の時」を期待し、これからの若者に期待するほかないとしたなら、生徒と引率教員という組み合わせを中心にすべきである。例えば、「北方領土に関する」全国スピーチコンテストで入選した生徒と引率教員とを最優先するようにすると、私立学校にも門戸が開かれる。今回の交流事業に、私学関係者が一人も参加していなかったが、国民の税金による事業であることを考えると、いかなるものかと疑問をいだいた。

また、都道府県単位の連絡協議会が弱いとしても熱心に取り組んでいる教員・生徒はいるはずである。今回、北海道・秋田・宮城・福島・茨城・神奈川・長野・愛知・石川・三重・滋賀・大阪・鳥取・岡山・広島・山口・香川・徳島・高知・熊本・長崎の21道府県の参加がなかったのだが、『北方領土に関する』エッセイを書いて、北方領土を自分の目で見てみよう！というキャッチコピーを掲げ、全国に呼びかけたならば、より多くの都道府県からの参加が望めるはずである。

Reportage: “Northern Territories: Kunashiri Island”

—Field report on the exchange programme for the four northern islands—

The year 2012 was marked by the unprecedented focus on territorial disputes in Japan. This sudden interest was triggered by the proposal of Shintaro Ishihara, Governor of Tokyo, to purchase the Senkaku Islands. Throughout the year, territorial disputes effectively served to drive nationalism. Under such circumstances, I had the opportunity in July to visit the island of Kunashiri as a participant in the Visit to the Four Northern Islands for Educators and Youth, organized by the Northern Territories Issue Association. The following is a report on the realities of Kunashiri, as I personally observed on a visit without a passport or visa.